

父の使った教員教科書

資料提供・文 竹中 寿美子

物置の片隅にあった段ボール箱から父が教員時代に使っていたと思われる明治大正時代の教科書が数十冊出て来ました。父の教員生活は、教員免許状を受領した



▲教員教科書
右から「高等小學校修身書 新制第三学年用」明治43年発行
「尋常小學校地理附圖」大正2年発行
「高等小學校地理附圖」大正2年発行
「高等小學校理科火事教科書 第1学年教師用」大正3年発行
「高等小學校讀本 卷二 女子用」大正2年発行

明治43年から始まりました。

初めての赴任先は、郡上郡山田尋常高等小學校でしたが、明治40年に小學校令が改正され、尋常小學校はそれまでの義務教育4年から、高等科1、2年を併せて6年となり、高等小學校は旧来の3、4年が1、2年と改められていました。

明治43年は「忠君愛國」の国民道徳が強化され家族的國家倫理が強化された第二期「国定修身書」が編集された年でもありました。この時の修身書には、高等科1、2年用に良妻賢母を説いた女性用の教科書も導入されました。

修身教育の中で育った私の生活は、父母は勿論、姉にも敬語を使い、お古の服をもらった時も幼い私は、「こんなにお姉ちゃんの服をもらって、お姉ちゃんおこりやあざせんか」と言ったとか。

学校に行く時は「先生の言う事をよく聞くように」と母に送り出



▲「高等小學校修身書 新制第三学年用 中表紙」

され、学校を出る時は先生から「家に帰ったらお父さん、お母さんのいう事をよく聞いて、お手伝いするように」と言われました。

父は毎朝洗顔後に太陽を拝み、神棚、仏壇におまいりしていました。お盆には先祖代々の写真を並べ、その前にお膳を用意しご先祖様をお迎えしていました。私は、そんな父の姿を見て育ちました。



▲「小學校地理附圖」

協力 郷土史の会